



インディアナ日本語学校便り

学校教育目標 自ら学び、正しく行動する国際性豊かな児童生徒の育成

5年生 自動車工業 ゲストティーチャー授業 11月12日



第5学年は、自動車工業を学習しています。11月12日(土)に、スバルの泉山いずみやま運営副委員長うんえいふくいんちようさんこうしを講師にお招きして、授業を行っていただきました。

泉山運営副委員長さんは、子どもたちのために資料をパワーポイントにまとめて準備してくれました。専門の人から直接お話を聞くことができるのは、子どもたちにとってとても教育効果が大きいです。

日本では、自動車に関連するお仕事をしている人は、550万人いるそうです。これは、人口の13人に1人に当たります。ラフィエットの工場では、自動車を作るオートメーションの流れについて、プレス・塗装(4回繰り返す)・産業用ロボットによる溶接や、デザイン・企画など、わかりやすく説明してくれました。



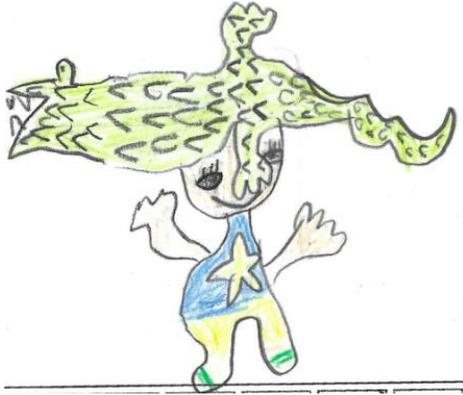
特に安全性ついきゆうを追求するための新車しやうとつじっけんの衝突実験では、前だけでなく、横からも後ろからも行う映像に、子どもたちの驚きと関心が集まっていました。さらに、歩行者が車にぶつかっても、倒れて頭がフロントガラスに当たらない車の外側のエアバッグも見せてもらいました。子どもたちは真剣に聞き、次々と質問が続きました。中でも「衝突実験に使われた車は、その後どうなるのか。」という質問に、車がつぶれた後も別の会社が引き取り、形を変えて再利用されることを知ると安心していました。泉山さんの「面白いモノをつくりたい、世界を便利にするサービスを未来に残していきたい。」という思いが伝わってきました。そして、スバルの会社の考え方は、



お客さんに笑顔になってほしいという、「笑顔をつくる会社」という話を聞きました。

最後に「生命の木」を例にあげて、泉山さんから「みなさんは将来どんな大人になりたいですか。そのためには、子どもの時から地面の下にある、自分の中心みたいな木の根っこを育てていくことが大切です。」というメッセージをいただきました。優れた製品を生産する、様々な人々の技術やその工夫と努力について、学ぶことができました。

「ミリーのすてきなぼうし」を読んで、「ぼく・わたしのそうぞうのぼうし」2年1組



熊澤 良知

ぼくのそうぞうのぼうしは、わにのぼうしです。そのわには、みどり色です。口を大きくあけています。それをかぶると楽しくなります。わにがのっているのにかかるくて、とてもべんりなぼうしです。あなたもぜひ、そうぞうしてみてください。



田路 虎之介

ぼくのぼうしは、おもいです。ぼくのぼうしは、ランボルギーニです。なぜかという、いつも足がはやくなるほうほうをかんがえているからです。



梶原 ひなの

わたしのそうぞうのぼうしは、にじ色のぼうしです。なぜ、にじ色ぼうしにしたかという、きれいでかわいいからです。わたしがにじをすきで、みんなにも見てほしいからです。



青砥 凜音

ぼくは、なんでもしてくれるぼうしがほしいです。たとえば、しゅくだいやいやなことをぜんぶやってくれるぼうし。形や色、大きさは、すべてふつうのぼうしに見えるけど、じつはすごいぼうし。ぐたいてきにいうと、ぼうしの中から手みたいなものが出てきて、むずかしいしゅくだいやゲームを十びょうでやってくれたり、おもちゃを十びょうでかたづけてくれたりするととてもすごいぼうしがほしいです。

インタビューきいて、きいて、きいてみよう 5-2

「父とサッカー選手について」 檜皮 莉那

父は小学1年生の時サッカーを始めました。父は子どものころからサッカーが大好きでした。父の兄がサッカーをやっていたのがきっかけで始めたそうです。そのため、毎日サッカーの練習をして、ライトが消えるまで、居残り練習をしていました。父はどんなに練習がつらくてもあきらめませんでした。そして父は、もしサッカー選手になれたら、日本代表になって、ワールドカップに出たかったそうです。父は中学3年生の時、サッカーの試合で3位をとったそうです。でも父は自分の限界が分かったから、高校1年生の時に練習をあきらめたいです。インタビュー中の父は、昔頑張ったことを色々思い出すような顔をしていました。今は昔よりは出来なくなっているらしいけれど、まだ夢はあきらめていないらしいです。私は父が昔からとてもサッカーを頑張っていて取り組んでいたことが良く分かりました。

「えいと君のサッカー」 筒井 尊太

えいと君は5年前からサッカーをやっていて、今でもアメリカでやっています。また、なぜえいと君に聞いたのかというと、彼はぼくのベストフレンドであり、もっとえいと君のことを知りたかったからです。そんなえいと君に、思い出のことを聞きました。

えいと君が日本で入っていたチームはすごく強く、県大会で3位という良い成績を持っていました。えいと君はそんなチームのレギュラーだったそうです。その分、練習もきびしく、週4回も練習をしていました。そういうことを含めて、うれしかったことや悔しかったことがたくさんあるそうです。中でも、県大会で3位をとり、テレビにも出演したことが一番うれしかったそうです。また、3位で負けてしまった悔しさを、サッカーが終わった後にマクドナルドへ行ってふっとぼしさそうです。

ぼくはそのようなことを聞いて、今までつらいことを乗り越えて、上手になれたことを「すごい」と思いました。また、サッカーを上手になりたいという思いから、県大会までいけたことを誇らしく思いました。これからもサッカーを続けて欲しいです。

「お父さんへのインタビュー」 中久木 琉隼

ぼくのお父さんはグリーンズバーグで働いています。ぼくがお父さんにインタビューした理由は、普段お父さんがどのような仕事をしているのか疑問に思ったからです。そして家で仕事をしているとき、となりで見ているどのようなものをつくっているんだろうと思ったからです。あと、お父さんの仕事に興味があったからです。お父さんは車関係の仕事をしています。車の部品の設計やどのような工程でつくるかを決めています。主にエンジンの部品をつくっています。部品は設計図をもとに鉄や銅、炭素等の鉄粉を全て型に入れて上下からあっしゅくすることで製品の型をつくっています。そして固めた製品を焼いて金属にします。その後、製品に必要な精度や強度に応じて機械加工や熱処理をして部品をつくっています。試作品をつくってから量産するまでに、約2年間かかり、量産できるようになっても一部品約1か月かかります。お父さんにインタビューして鉄や銅から部品をつくるのは、とても時間がかかることを知りました。朝早くかた工程など難しい仕事をしているのが大変だと思いました。



サンクスギビングデーを過ごす!!

昨年サンクスギビングデーの日に、アメリカの友人のチャドさんの家に招待してもらいました。しょうたい家に着くと、チャドさんの奥さんと子どもたちが出迎えてくれました。やがて、チャドさんのご両親 でむかいとこ 姪 めい 近所の人 奥さんのお母さんもそろいました。久しぶりに会うので、みなさんハグをしてキスをし合って喜びを表現していました。

チャドさんの姪の方は、ソフトボールのプレーヤーでした。なんと、日本の埼玉県で自動車会社の社会人チームに、アメリカから招かれて所属していた経験があまりました。オリンピックで金メダルの上野投手とも、たいせん対戦したそうです。

チャドさんのリビングには、パーティー用の大きなテーブルが3つセッティングされていて、ビュッフェ形式で大皿にたくさんの料理が並べられていました。午後3時くらいから始まり、私もみなさんに紹介され、それぞれに会話がはずんでいました。



この後、夕方からは、20~30人のお客さんが訪れて顔を出すとのことでした。

テレビでは、毎年サンクスギビングの日の特別なアメリカンフットボールの試合が昼からずっと行われていました。スポーツ好きのチャドさんは、チャンネルを変えながらそれぞれのチームの試合を観ていました。

チャドさんの家の過ごし方を観察していると、日本人がお正月やお盆に実家ほん じっかに帰るように、サンクスギビングデー(Thanksgiving Day)は家族が集まる大切な「家族行事の日」ということがよくわかりました。アメリカでは珍しい大型連休で、アメリカ人は毎年11月第四木曜に合わせて全米で帰省ラッシュが繰り広げられます。親しい友人も招待して、ご馳走ちそうを囲みます。そうやって、「家族はもちろん、自分の周りまわにいてくれる人たちに感謝して、それをお祝いする日」なのです。



サンクスギビングデーの始りとは?

実は、感謝祭は「ネイティブアメリカン」に感謝をすることから始まりました。

1620年、イギリス人の移民たちは新天地を求めてメイフラワー号に乗ってアメリカにやって来ました。そして、今のマサチューセッツ州のプリマスに住み始めました。

しかし、右も左もわからない一団を待ち受けていたのは、1年目の冬でした。この年の冬は寒さが非常に厳しく、イギリスから持ってきた作物も育たず苦勞をしました。そのため、凍死や餓死などで大半の仲間を失い、困り果てていました。



当時この地には、先住民のネイティブアメリカン(インディアン)が住んでいました。その名はワンパノアグ族です。このネイティブアメリカンたちは、食べるものにも困っている一団に、食糧を分け与えました。そして、とうもろこしなどの作物の種を譲って作り方を教えたり、狩の仕方を教えたり、山で獲った野生の七面鳥、衣類などをあげたりして、大自然の中の暮らし方を教え、助けてあげたのです。そのおかげで移民たちは、ネイティブ・アメリカンにならって勤勉に働き、無事に収穫を迎えることが

アメリカの移民たちとネイティブアメリカン(インディアン)

でき、ワンパノアグ族に非常に感謝しました。



そこでプリマスに住む移民たちは、1621年の11月に、お世話になったワンパノアグ族を食事に招待し、初めて収穫した作物や野生の七面鳥(ターキー)、そしてタラやマスなど、近くの海の幸を食卓にのせてお祝いの席を開き、共にごちそうを食べたのです。ワンパノアグ族の友人と神の恵みに感謝(サンクスギビング)した、これが感謝祭の始まりとされています。

この後もアメリカへの移民は増え続けます。そうやって助けてもらったのに、50年もたつと、とうとう移民の数がネイティブアメリカンをはるかに上回り、移民とネイティブアメリカンとの間で戦争が起こってしまいます。移民はそのネイティブアメリカン(インディアン)を殺したり、土地をうばったりしていきます。数々のネイティブアメリカンは、もともとこの地にいたにもかかわらず、そうやってひどいあつかいを受け、移住もさせられてしまいます。

それがキングフィリップ戦と呼ばれるものです。結局恩を仇で返すといった悲しい歴史の結末になってしまったのです。

移民にトウモロコシや七面鳥の育て方を教えたワンパノアグ族

〈キングフィリップ戦争〉

1675～76年にアメリカのニューイングランド地方で、ネイティブアメリカンが白人に土地をうばわれることに耐えかねて、ワンパノアグ族をはじめとする他の部族が連合して戦いを起こした。ネイティブアメリカン連合軍の指導者ワンパノアグ族の大族長が、フィリップ王と呼ばれたことからこの名がついた。最初からこの地に住んでいたネイティブアメリカン(インディアン)連合軍とニューイングランド連合軍との間に大きな戦いとなった。ニューイングランド側は兵士を動員して、徹底的な射殺を行った。捕まったものは奴隷として売られた。この戦いの結果、ニューイングランドのネイティブアメリカンは、再び立ち上がれないほどの壊滅的な打撃を受けた。



〈キングフィリップ戦争〉

サンクスギビングデーの間に行われること

ブラックフライデー



サンクスギビングデーの翌日金曜日は「ブラックフライデー」と呼ばれ、あらゆる小売店が一年に一度の大セールを行います。そのため、多くの人がここぞとばかりにショッピングを楽しむのです。それまでの赤字を黒字にするという意味で、ブラックということばがついています。サンクスギビングデーはカナダやイギリス、オランダ、フィリピンなどでも祝う習慣があり、最近では日本でもサンクスギビングセールやブラックフライデーセールなどを見かけるようになりました。

しかし、果たして日本でイベントして定着するのでしょうか。もともとネイティブアメリカンから助けもらったことへの感謝が始まりと知ると、日本と歴史が違うだけに、義理と人情の日本人には、祝うイベントとして定着するかなという思いもあります。

メイシーズ百貨店 大規模なパレード

ニューヨークにある Macy's(メイシーズ)という百貨店が、大規模なパレードを行っています。テレビ中継も朝9時(東部時間)から「メイシーズ・サンクスギビング・パレード」の放送がはじまります。大きな風船を使ったパレードで、いろいろなキャラクターが出てきます。

アメリカンフットボール

国民的スポーツのアメリカンフットボール、NFLの試合も、3試合だけですが、昼間から行われます(普段は日曜と月曜の夜にしか試合がありません)。

そして、離れている大事な家族や親しい友人に、カードやメールなどを送っ



メイシーズ パレード 2021

たり、電話をしたりします。「Happy Thanksgiving!!(楽しいサンクスギビングの休暇を!!)」



ハロウィーンが終わり、一息つく暇もなく、サンクスギビング、これが終わると人々の楽しみはすぐ1か月後のクリスマスに向けられます。クリスマスと、アメリカの秋から初冬にかけて、ホリデーシーズンに突入していきます。

サンクスギビングを経験して……

感謝祭の食事に招待されたことは、とてもすばらしく、ありがたいことでした。ふつうの日の夕食に招待ではなく、感謝祭の食事に招待されるということは、もっとBIGですごいことだということがわかりました。なぜなら、感謝祭の料理を作るのは、とても時間と手間がかかるからです。

これだけの手間と時間をかけて作った食事を、食べさせていただけのわけです。この特別な日に招待してくれたので、お酒が大好きなチャドには、スパークリングワイン、日本のビール、日本の梅酒をエチケットとしてお土産に持って行きました。



食事中も、ターキーの大きさにはびっくりしました。一つ一つの食べ物の名前がわからないので、This is so delicious. と言いながら、その他の料理の名前も色々聞いて、記録に取りました。Everything is so delicious. と言って全部美味しいですと伝えました。

帰りに際には、Thank you so much for everything. We had a great time. Food was delicious. Everything was wonderful. Happy thanksgiving!!とつたない英語で最後にお礼を言いました。

【お知らせ】

11月26日 学校休み **サンクスギビング**
12月3日 幼稚部クリスマス会 避難訓練
12月17日 2学期終業日



本日の配布物 第2回漢字検定1月28日実施申込 締め切り12月3日